

青山神明遺跡の土坑墓の検討

梶田真由

本稿は愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を行なっている青山神明遺跡について取り上げる。本遺跡は西春日井郡豊山町に位置し、2023年度から2025年度までの発掘調査の結果、弥生時代から江戸時代かけての遺構や遺物が見つかった。その中で土坑は7,000基以上見つかっており、深さや平面形に多様性が見られる。さらにこれらの土坑からは様々な遺物も出土している。

そこで本研究では土坑の出土遺物や形を分類し土坑墓の推定を試みた。その結果、一部の土坑が土坑墓の可能性があると指摘した。

1. はじめに

今回取り上げる青山神明遺跡は、豊山町の北西側に位置しており、一級河川である大山川と小牧市の市境を流れている中江川に挟まれた場所で低位段丘に広がる遺跡である。

本遺跡では愛知県埋蔵文化財センターによって2023年度から現在まで発掘調査が行われており、遺跡の主な時期は古墳時代中期から室町時代までの遺構が確認されている。また、遺跡の南西側では古代から中世にかけての掘立柱建物跡や竪穴建物跡が複数確認されており、遺跡の南東側は河川の堆積により地形が下がって行く特徴がある。大規模な発掘調査によって大まかな集落の位置は明らかになりつつあるが、中世墓は、現段階では候補はいくつかあるがはっきりとは分かっていない。

問題点としては、土坑墓とされている遺構は遺体出土すれば土坑墓の可能性が高くなるが本遺跡の場合は、遺物も出土しないこともあり土坑の性格を確定することが難しいことが挙げられる。そこで今回は土坑墓と確定することは難しいと判断したため、まず青山神明遺跡から検出された土坑（約7,000基以上）を分類しその中から土坑墓の可能性が高い遺構を抽出していく。今年度はこれらを整理し愛知県内で検出された古代～中世にかけての土坑墓の事例と照らし合わせながら青山神明遺跡で検出された土坑墓の可能性のある遺構を挙げていきたい。

2. 愛知県内の土坑墓の先行研究

愛知県における中世土坑墓の研究は、主に遺構の形状分類と墓域としての分析という2つの研究が進められている。

形状分類に関しては、主に岡本直久によって研究が進められている。岡本は、尾張・三河地方のみならず遠江、美濃、伊勢地方までを視野に入れた地域の土坑墓について詳細な分類を提示した（岡本他1994）。その後、品野西遺跡において多数検出された土坑墓の調査成果が報告書としてまとめられた（岡本1997）。岡本は品野西遺跡の調査成果を踏まえ、遺構の特徴から「土坑墓A」「土坑墓B」「火葬施設」の3種に大別した。さらに「埋葬方法」「平面形状」「床面」の3要素に基づき7類に及ぶ個別分類を体系化した（岡本2001）。これらの分類は、愛知県における土坑墓を検討する上で重要な指標となっている。

また、墓域の分類については、赤塚次郎と先の岡本によって研究がある。赤塚は土田遺跡の報告書において①土壌の群集性、②長短軸比1:2の隅丸長方形を呈する平面形、③遺物の伴出がないこと、という3つの要素を満たす遺構を「土坑墓（方形土壌）」として定義した（赤塚1987）。さらに、岡本は2006年に行われた『墓場の考古学』において、愛知県の中世段階の墓域の構造的分類を行い、土坑墓の消長を整理している（岡本2006）。

3. 研究方法

本研究の対象は、青山神明遺跡のうち 2023 年度から 2025 年度の調査区で検出された土坑 (SK) である。分析にあたっては、これらを取り上げ、平面形および出土遺物の有無や内容によって分類をおこなった。

遺構の平面形の分類方法は

1. 遺構の平面形が円形である…A 類
 2. 遺構の平面形が楕円形である…B 類
 3. 遺構の平面形が隅丸の長方形である…C 類
 4. 遺構の平面形が不定形である…D 類
 5. 遺構の平面形が他の土坑や溝などと重複しており不明である…E 類
- の 5 類に分けた。また、遺物の有無は下記の 7 類に分けた。

1. 山茶碗や土師器などが含まれている…1
2. 蔵骨器などが含まれている…2
3. 礫や石器などが含まれている…3
4. 炭化物または骨が含まれている…4
5. 金属が含まれている…5
6. その他の遺物が含まれている…6
7. 遺物が含まれていない…7

※なお昨年度 (梶田 2024) の中で SK 表記で井戸として取り上げた遺構や SK 表記で柱痕が確認されている遺構は今回の対象からはずした。また、本遺跡では削平されている箇所が多く遺構の深さは一様ではないため深さは考慮せず分類を行った。遺物が含まない土坑 (7 類) は、時期の判断をすることが難しいため今回は全ての土坑を対象に分類をおこなう。

4. 分類結果

分類の結果、遺構の平面形は A 類 5195 基、B 類 65 基、C 類 139 基、D 類 1338 基、E 類 690 基であった。(表 1) A 類は、分類別で最も多く検出されている土坑である。調査区別では 24C 区では 1000 基以上、25A 区では 600 基以上の土坑が確認されており、青山神明遺跡の中央部分から北側で多く検出されている。B 類は 65 基と分類の中では一番少ない結果となった。そのため分布には偏りがあり確認されていない調査区もあるが 25E 区では 10 基と一番多く確認数となった。C 類は 139 基で B 類同様に他の分類と比べると少ないものの 24C 区、24F 区、25A 区、25I 区、25P 区では 10 基以上確認された。D 類は A 類同様に 1000 基を超える土坑が検出



図1 青山神明遺跡調査区全体図

表1 土坑分類表（左上：A類、右上：B類、左下：C類、中央下：D類、右下：E類）

調査区/分類	A1	A3	A4	A1,3	A1,4	A1,3,4	A7	合計
23A	18	0	0	0	0	0	35	53
23B	92	1	0	0	0	0	270	363
23C	9	0	0	0	0	0	69	78
23D	86	0	0	4	0	0	171	261
23E	13	0	0	0	0	0	51	64
24A	11	0	0	0	0	0	253	264
24B	10	0	0	0	0	0	163	173
24C	333	1	2	7	0	1	843	1187
24D	36	0	0	0	0	0	160	196
24E	0	0	0	0	0	0	0	0
24F	17	0	0	0	1	0	58	76
24G	5	0	0	0	0	0	2	7
24H	13	0	0	0	0	0	55	68
24I	7	0	0	0	0	0	34	41
24J	13	0	0	0	0	0	53	66
24K	151	2	0	4	0	0	280	437
24L	0	0	0	0	0	0	22	22
24M	7	0	0	0	0	0	22	29
24N	0	0	0	0	0	0	4	4
青山神明A	4	0	0	0	0	0	4	8
青山金剛B	0	0	0	0	0	0	3	3
25A	350	0	0	0	0	0	256	606
25B	19	0	0	0	0	0	37	56
25C	8	0	0	0	0	0	2	10
25D	0	0	0	0	0	0	1	1
25E	135	0	0	0	0	3	178	316
25F	20	0	0	1	0	0	63	84
25G	4	0	0	0	0	0	17	21
25H	32	0	0	0	0	0	167	199
25I	1	0	0	0	0	0	50	51
25J	21	0	0	1	0	0	6	28
25K	2	0	0	0	0	0	1	3
25L	0	0	0	0	0	0	0	0
25M	0	0	0	0	0	0	18	18
25N	2	0	0	0	0	0	7	9
25O	0	0	0	0	0	0	32	32
25P	108	0	1	1	1	0	204	315
25Q	1	0	0	0	0	0	3	4
25R	8	0	0	0	0	0	34	42
合計	1536	4	3	18	2	4	3628	5195

調査区/分類	B1	B2	B3	B4	B1,3	B1,4	B7	合計
23A	0	0	0	0	0	0	0	0
23B	0	0	0	0	0	0	0	0
23C	0	0	0	0	0	0	0	0
23D	1	0	0	0	0	0	0	1
23E	0	0	0	0	0	0	0	0
24A	0	0	1	0	0	0	2	3
24B	1	0	0	0	0	0	2	3
24C	3	0	0	0	0	0	1	4
24D	0	0	0	0	0	0	0	0
24E	0	0	0	0	0	0	0	0
24F	1	0	0	0	0	0	2	3
24G	0	0	0	0	0	0	1	1
24H	0	0	0	0	0	0	0	0
24I	0	0	0	0	0	0	2	2
24J	0	1	0	0	0	0	0	1
24K	2	0	0	0	0	0	1	3
24L	0	0	0	0	0	0	0	0
24M	0	0	0	0	0	0	0	0
24N	0	0	0	0	0	0	0	0
青山神明A	0	0	0	0	0	0	0	0
青山金剛B	0	0	0	0	0	0	0	0
25A	0	0	0	0	0	0	0	0
25B	0	0	0	0	0	0	0	0
25C	1	0	0	0	0	0	0	1
25D	0	0	0	0	0	0	0	0
25E	4	0	0	0	0	0	6	10
25F	5	0	0	0	0	0	3	8
25G	1	0	0	0	1	0	0	2
25H	7	0	0	1	0	5	1	14
25I	2	0	0	0	0	0	5	7
25J	2	0	0	0	0	0	0	2
25K	3	0	0	0	0	0	0	3
25L	3	0	0	0	0	0	0	3
25M	1	0	0	0	0	0	1	2
25N	0	0	0	0	0	0	0	0
25O	0	0	0	0	0	0	0	0
25P	0	0	0	0	0	0	1	1
25Q	0	0	0	0	0	0	0	0
25R	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	37	1	1	1	1	5	28	74

調査区/分類	C1	C2	C3	C4	C1,3	C7	合計
23A	0	0	0	0	0	0	0
23B	2	0	0	0	0	0	2
23C	0	0	0	0	0	0	0
23D	2	0	0	0	0	0	2
23E	1	0	0	0	0	3	4
24A	5	0	0	1	0	1	7
24B	3	0	0	0	0	0	3
24C	16	0	0	0	0	6	22
24D	0	0	0	0	0	0	0
24E	0	0	0	0	0	0	0
24F	13	0	1	0	0	9	23
24G	0	0	0	0	0	0	0
24H	0	0	0	0	0	0	0
24I	0	0	0	0	0	0	0
24J	0	0	0	0	0	1	1
24K	2	0	1	0	0	1	4
24L	0	0	0	0	0	0	0
24M	0	0	0	0	0	0	0
24N	0	0	0	0	0	0	0
青山神明A	1	0	0	0	0	1	2
青山金剛B	0	0	0	0	0	1	1
25A	9	0	0	0	0	1	10
25B	0	0	0	0	0	1	1
25C	0	0	0	0	0	0	0
25D	0	0	0	0	0	0	0
25E	2	0	0	0	0	2	4
25F	1	0	0	0	0	0	1
25G	0	0	0	0	0	0	0
25H	3	0	0	0	1	3	7
25I	3	0	0	0	0	11	14
25J	7	0	0	0	0	2	9
25K	0	0	0	0	0	0	0
25L	0	0	0	0	0	0	0
25M	1	0	0	0	0	5	6
25N	1	0	0	0	0	0	1
25O	1	0	0	0	0	0	1
25P	7	1	0	1	0	3	12
25Q	0	0	0	0	0	0	0
25R	2	0	0	0	0	0	2
合計	82	1	2	2	1	51	139

調査区/分類	D1	D3	D4	D1,3	D1,4	D1,5	D7	合計
23A	4	0	0	0	0	0	2	6
23B	4	0	0	0	0	0	2	6
23C	0	0	0	0	0	0	3	3
23D	8	0	0	0	0	0	1	9
23E	3	0	0	0	0	0	27	30
24A	2	0	0	0	0	0	21	23
24B	2	0	0	0	0	0	18	20
24C	39	0	0	1	0	0	92	132
24D	7	0	0	0	0	0	24	31
24E	0	0	0	0	0	0	0	0
24F	29	3	1	0	0	0	26	59
24G	0	0	0	0	0	0	3	3
24H	4	0	0	1	0	0	7	12
24I	4	0	0	0	0	0	23	27
24J	4	0	0	0	0	0	11	15
24K	24	0	0	1	0	0	19	44
24L	1	0	0	0	0	0	2	3
24M	12	0	0	0	0	0	9	21
24N	2	0	0	0	0	0	2	4
青山神明A	0	0	0	0	0	0	4	4
青山金剛B	5	0	0	0	0	0	2	7
25A	30	0	0	0	0	0	24	54
25B	4	0	0	0	0	0	4	8
25C	8	0	0	0	0	0	1	9
25D	0	0	0	0	0	0	0	0
25E	39	0	0	1	0	0	61	101
25F	7	0	0	0	0	0	6	13
25G	1	0	0	0	0	0	7	8
25H	16	0	0	0	1	1	43	61
25I	4	0	0	0	0	0	63	67
25J	2	0	0	0	0	0	1	3
25K	3	0	0	0	0	0	0	3
25L	1	0	0	0	0	0	0	1
25M	46	0	0	0	2	0	266	314
25N	4	0	0	0	0	0	1	5
25O	2	0	0	0	0	0	0	2
25P	72	0	0	0	0	0	149	221
25Q	3	0	0	0	0	0	2	5
25R	1	0	0	0	0	0	3	4
合計	397	3	1	4	3	1	929	1338

調査区/分類	E1	E3	E4	E1,4	E1,5	E1,6	E7	合計
23A	3	0	0	0	0	0	6	9
23B	0	0	1	0	0	0	8	9
23C	1	0	0	0	0	0	1	2
23D	0	0	0	0	0	0	0	0
23E	0	0	0	0	0	0	0	0
24A	2	0	0	0	0	0	14	16
24B	6	0	0	0	0	0	5	11
24C	1	0	0	0	0	0	7	8
24D	1	0	0	0	0	0	21	22
24E	0	0	0	0	0	0	0	0
24F	19	3	0	0	0	0	20	42
24G	4	0	0	0	0	0	3	7
24H	5	0	0	0	0	0	11	16
24I	2	0	0	0	0	0	18	20
24J	2	0	1	0	0	0	14	17
24K	1	0	0	0	0	0	32	33
24L	0	0	0	0	0	0	15	15
24M	9	0	0	0	0	0	8	17
24N	0	0	0	0	0	0	3	3
青山神明A	0	0	0	0	0	0	6	6
青山金剛B	0	0	0	0	0	0	3	3
25A	2	0	0	0	0	0	10	12
25B	1	0	0	0	0	0	4	5
25C	2	0	0	0	0	0	0	2
25D	1	0	0	0	0	0	0	1
25E	10	0	0	0	0	0	5	15
25F	2	0	0	0	0	0	1	3
25G	1	0	0	0	0	0	2	3
25H	20	1	1	3	0	1	31	57
25I	2	0	0	1	0	0	70	73
25J	3	0	0	0	0	0	1	4
25K	1	0	0	0	1	0	0	2
25L	0	0	0	0	0	0	0	0
25M	5	0	0	0	0	0	22	27

されており 25P 区では 300 基以上の土坑が確認された。E 類は 25I 区や 25P 区やなどの A 類～D 類が多く検出されている調査区から多く確認される傾向にある。

1 類～7 類の遺物の有無では A 類では 7 類が 3628 基確認されており A 類全体の半数以上を占めた。他の分類では、B・C 類は 1 類の土坑が多く、D・E 類では、7 類が多い結果となった。遺物が含まれている土坑の中では、1 類が一番多く 2,242 基確認されおり全体のうち遺物を含む土坑の 3 割以上であった。また、2～6 類は単体で確認されていることはほとんどなく 1 類とセットで出土する事例がことが多くことが明らかとなった。24J・250 区の土坑からは 2 類が出土しており、また 25H 区は 1 類の他に 3・4 類が含まれている土坑が 5 基確認されている。

調査区別では、24C 区、青山金剛 A 区、B 区、25A 区、25P 区の 5 調査区が他と比べて土坑が多く調査区北側から北西にかけて土坑広がっていくことが判明した。

今回は SK のみに焦点を当てているため、土坑数が少ない調査区においては、他の遺構（遺構記号が SD や SP）などが多く確認されている可能性がある。

5. 土坑墓の分類方法と土坑墓の検討

今回の土坑墓を抽出するにあたり墓場の考古学第 13 回東海考古学フォーラム 2006 に掲載されている『愛知県における中世土坑墓の分類』pp197～201（岡本 2006）を照らし合わせて検討する。

土坑墓の分類（岡本 2006）は、埋葬方法（土葬・火葬）・墓地形態（単独・集団）、を大分類とし、墓形態の相違を小分類（土坑墓・集石墓・火葬施設など）とする分類基準を設けている。類型は合計 9 種類であり、その内容は以下の通りである。

○土葬

・土葬・単独—土坑墓

人骨や副葬品が確認されて墓と断定、あるいはその可能性が高いもの。集落内の一角が選地され、1 基～3 基で構成される。土坑内には、山茶碗などの供膳具とともに刀子・鏡などの愛

用品が副葬される。

・土葬・集団—土坑墓

2 種類に細分され土坑群 A と土坑群 B がある。土坑群 A は、無構造・無遺物であるが方位をそろえて群集すること、規模や形状に規格性があること、比較的短時間に埋め戻されることを特徴としている。

土坑群 B は、長辺の短い隅丸方形土坑で、銭貨が副葬される。人骨が遺存する例が多く見られ埋葬体位は側臥屈葬をしている土坑である。

○火葬

・火葬・単独—集石墓

小規模で明確な区画をもたない。集落内に構築されるようであるが詳細は不明である。

・火葬・単独—古墳石室内埋葬

開口した古墳石室内や墳丘上や周溝内に土坑墓が築かれる例がある。

・火葬・単独—土坑墓

居住区とは異なる区画に蔵骨器と思われる壺を納めている。阿弥陀寺遺跡で確認されている。

・火葬・単独—その他

周辺の状況が不明な場合が多く元々単独であったのか、複数あるうちの 1 個体がたまたま出土したのか分からない例も多い。

・火葬・集団—集石墓

ほとんどは集落外の丘陵にあり後世の影響で削平が進んでいるが、法圓寺中世墓遺跡は唯一当時の現状を留めている。

・火葬・集団—土坑墓

火葬骨を蔵骨器を入れるなどして埋納する例が多いが銭貨、炭化物などとともに直葬する例もある。品野西遺跡では、複数確認されている。

・火葬・集団—火葬施設

墓ではなく、火葬を行った施設をあらわす。床面が被熱し骨片や炭化物が残存する。土坑底部に通風孔を持つもの、石を敷かれるものなどいくつかのタイプがある。

以上の分類が岡本（2005）の土坑の分類である。

ことを踏まえて、1 分類ずつ青山神明遺跡における各類型の性格と具体的所見を確認していく。

まず「土葬・単独—土坑墓」は、完品の山茶

碗が出土している土坑が複数確認されおり供膳具とされる遺物は出土しているが刀子や鏡などの副葬品は出土していないため該当例はないと考えられる。

「土葬・集団—土坑墓」は、詳細分類の土坑群A類に該当するものとして（青山神明遺跡では）遺構分類でC7類の土坑が複数確認されている場所が2か所あり、24C区と24F区である。なお土坑群Bの人骨が多く遺存したり銭貨が埋葬されている土坑は確認されていないので該当する土坑はない。

火葬・単独—集石墓、古墳内、土坑墓、その他の土坑は、青山神明遺跡では確認されていない。

火葬・集団—集石墓は火葬・単独—集石墓と同様に青山神明遺跡では該当する土坑は確認されていない。

「火葬・集団—火葬墓」に該当するものとして遺構分類で2類である24J区078SKと0037SKの2基である。また、遺物分類の2類は確認されていないが、4類や5類が含まれている土坑は、25H区確認されており139SK他9基である。

火葬・集団—火葬施設は礫が敷かれている土坑は複数確認されるが床面が被熱し、骨片や炭化物が含まれている土坑は確認されていないので該当する土坑はないと考えられる。

6. 青山神明遺跡の土坑の事例紹介

前述の検討により、青山神明遺跡において土坑墓の可能性のあるのは「土葬・集団—土坑墓（土坑群A）」、「火葬・単独—その他」、「火葬・集団—土坑墓」の2分類である。土坑墓A群の可能性が高い土坑群は、24C区・24F区の2箇所を確認されている。

○土葬・集団—土坑墓①

24C区では調査区の北側である24Cb区調査区で検出され、18基で構成されている。（0351SK、366SK、1094SK、1105SK、1566SK、1591SK、1652SK、1669SK、1702SK、1725SK、1813SK、1819SK、1821SK、1822SK、1837SK、1842SK、1843SK、1871SK）大きさは最大の土坑では長軸3.2m×短軸0.89mであった。主軸方向は、真北から東へ約15度前後および20度前後傾いて



図2 青山神明遺跡 24Ca区土坑群位置図

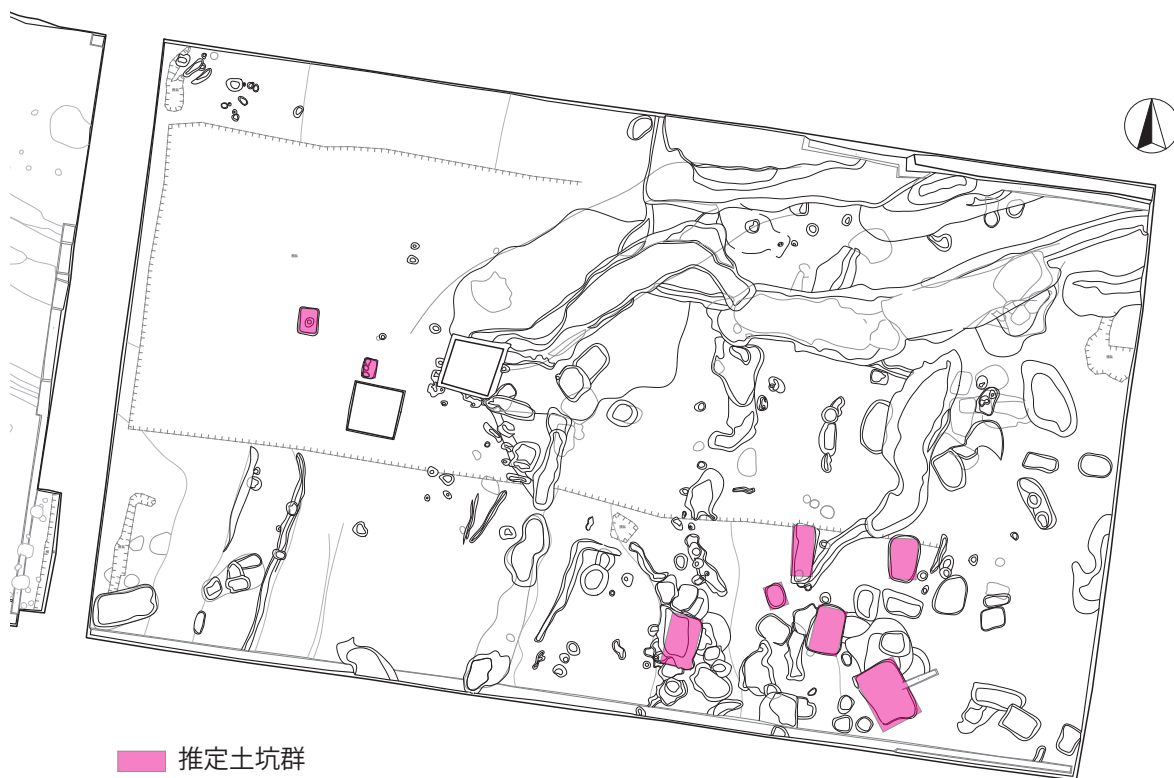


図3 青山神明遺跡 24Fb 区土坑群位置図

いる土坑（10基）と東西方向では西から東へ約17度前後で傾いている土坑（8基）の2の方向を向いている土坑が確認された。埋土は、黒褐色の埋土と一緒に地山由来の黄褐色土の土が斑土状に堆積している。

○土葬・集団一土坑墓②

24F区は24Fb区の調査区南東側で8基で構成されおり墓の規模は小さいという結果となった。（2036SK、2040SK、2055SK、2056SK、2125SK、2160ST、2161SK、2194SK、）大きさは最大で長軸2.05m×短軸1.08mと24C区と同じような大きさである。主軸は南北方向のみで、真北から東に10度前後傾いている土坑が複数であるが2142SKは真北から約15度傾いている。埋土は24C区同様に斑土状になっている。遺物は、24C区・24F区ともに遺物は一点も出土していない。（土坑群A図2・図3、個別遺構図 図5～10）

○火葬・集団一土坑墓

「火葬・集団一土坑墓」の可能性が高い土坑は24J区、250区25H区の3か所で確認された。

①24J区078SK

24J区078SKは、調査区の端から確認されたため遺構の形状は不明瞭だがおおよそ楕円形を

している。大きさは2.15×1.07mである。断面の状況は写真からしか判断できないが焼土ブロックが含まれていると思われる。遺物は灰釉四耳壺が出土した。出土状況では割れていたがほぼ完品状態で納められていた。（図9）

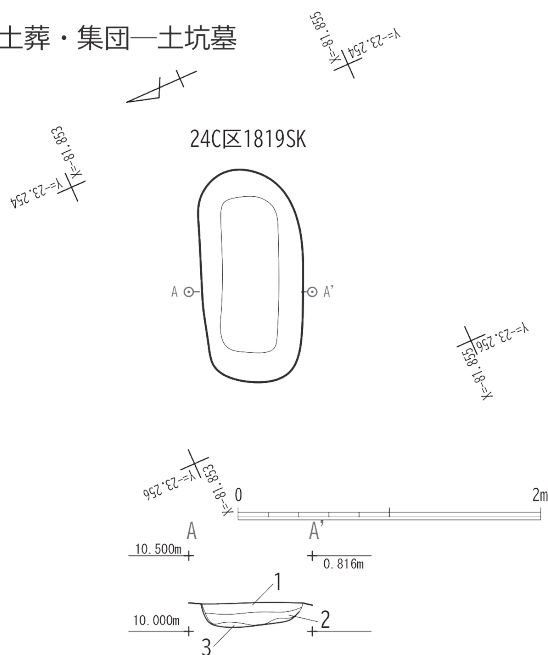
②250区0037SK

250区0037SKは遺構の平面形は細長い長方形をしている。大きさは4.82×0.92mで深さは0.18mと浅い。遺物は主に灰釉四耳壺、鉄釉瓶子が出土した。土坑近くの溝からは炭化物和骨片が複数確認されている。（図10）

③25H区で検出された土坑

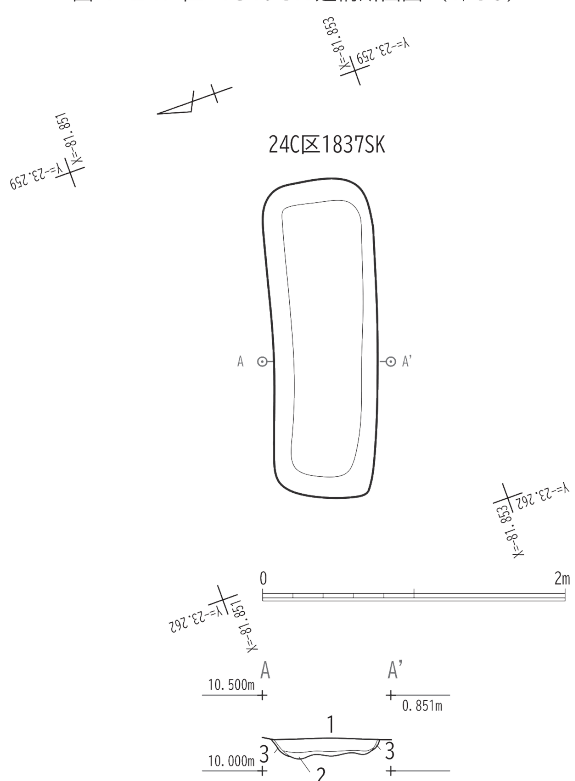
25H区で確認された7基は上記の蔵骨器が出土している土坑墓とは異なり、炭化物や銭貨などが出土している土坑である。（139SK、140SK、141SK、142SK、144SK、198SK、199SK、）平面形は、141SKは隅丸方形であるがその他は楕円形である。大きさは最大で2.45×0.81mと他の土坑墓と同様の大きさである。埋土は焼土や骨片が含まれている。この7基の火葬墓は24J区や250区などの近隣調査区で確認されているので合計で10基で構成されていると考えられる。（図9～13）

○土葬・集団一土坑墓



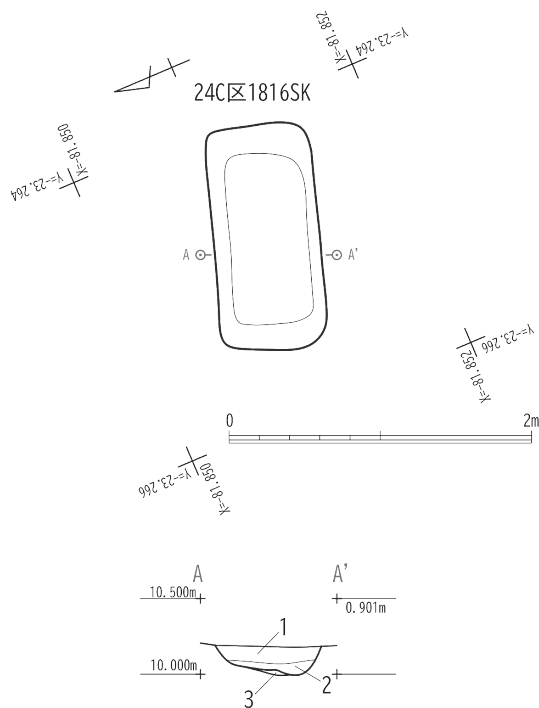
- 1 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック少量 10YR5/6 黄褐色 粘土粒少量含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色 粘土 10YR2/3 黒褐色 粘土ブロック少量 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック 少量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック少量含む。
- 3 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR3/2 黒褐色 粘土ブロック少量含む。(地山)

図4 24F区 1819SK 遺構断面図 (1/50)



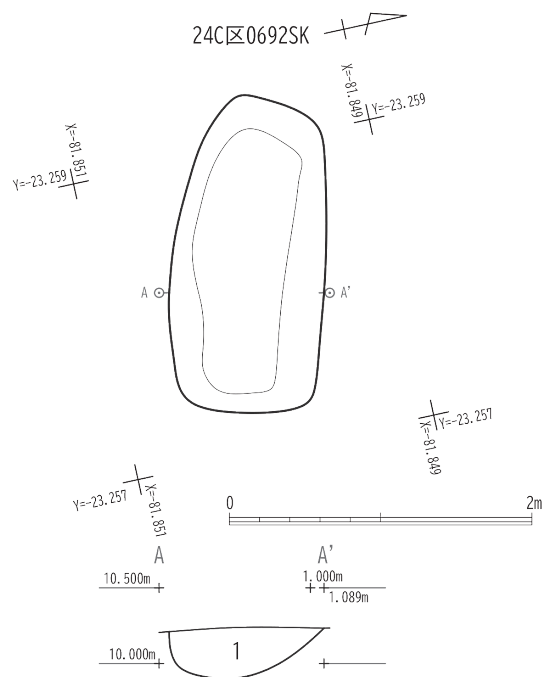
- 1 10YR3/3 暗褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック少量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック微量含む。
- 2 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR2/3 黒褐色 粘土ブロック少量 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック少量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック少量含む。
- 3 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック少量含む。

図5 24C区 1837SK 遺構断面図 (1/50)



- 1 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック少量 10YR5/6 黄褐色 粘土粒少量含む。
- 2 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR2/3 黒褐色 粘土ブロック中量 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック微量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック中量含む。
- 3 10YR5/6 黄褐色 粘土 (地山)

図6 24C区 1816SK 遺構断面図 (1/50)



- 1 10YR3/4 暗褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック少量 10YR2/3 黒褐色 粘土粒微量 10YR5/6 黄褐色 粘土粒少量含む。

図7 24C区 0692SK 遺構断面図 (1/50)

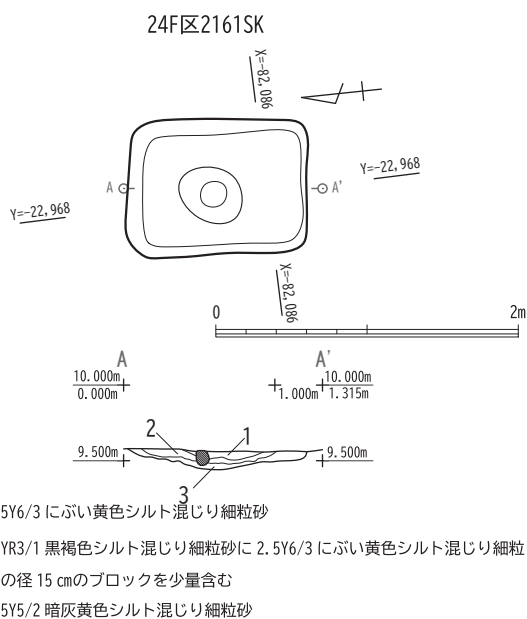


図 8 24C 区 2161SK 遺構断面図 (1/50)

○火葬・集団一土坑墓

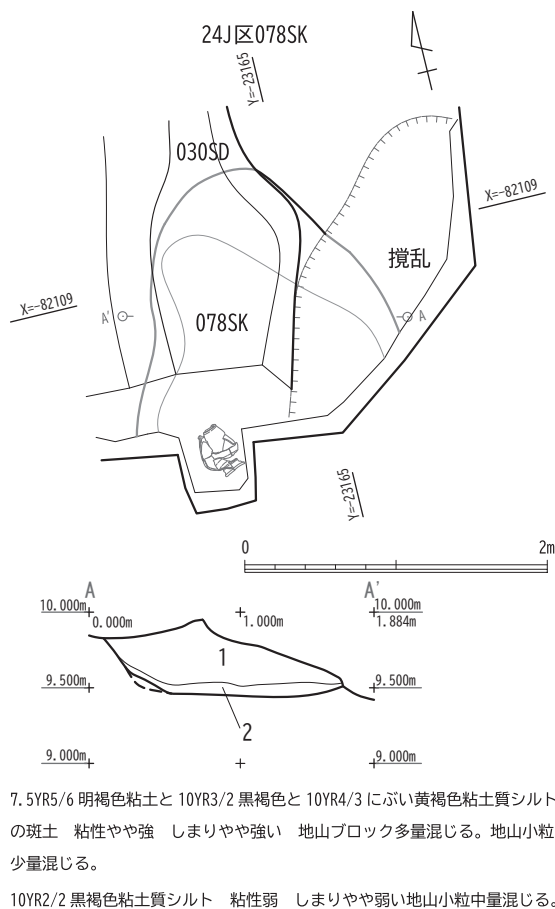


図 9 24Jb 区 078SK 遺構断面図 (1/50)

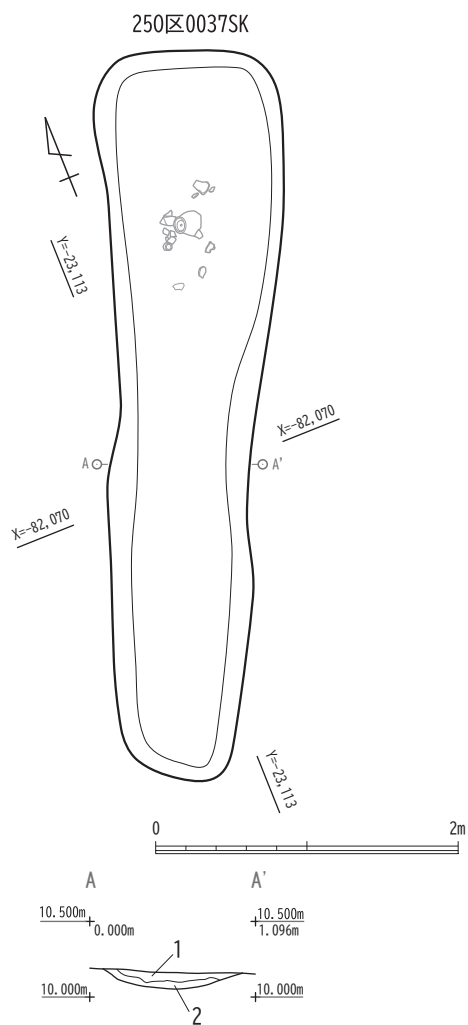


図 10 250 区 0037SK 遺構断面図 (1/50)

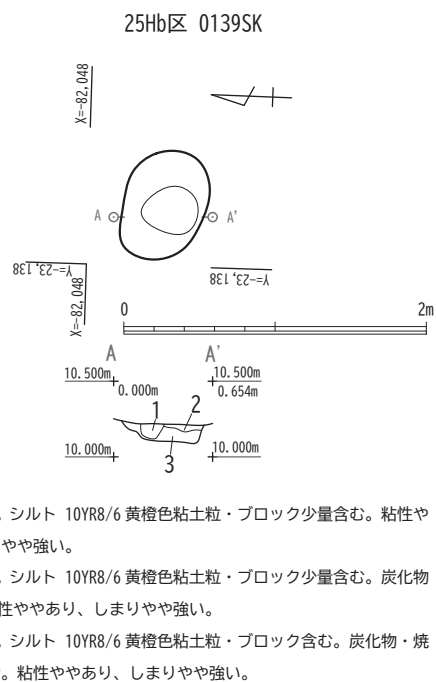
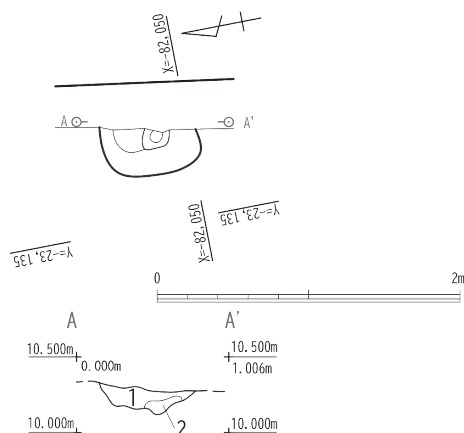


図 11 25H 区 0139SK 遺構断面図 (1/50)

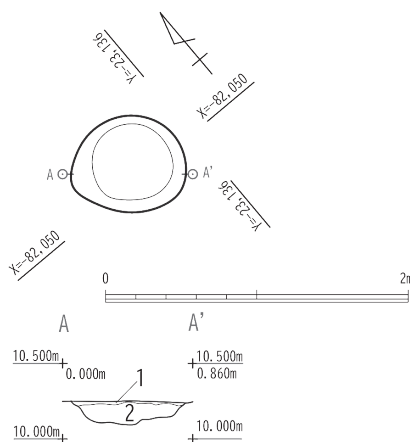
25Hb区 0142SK



- 10YR3/1 黒褐色 シルト 10YR8/6 黄褐色粘土粒・ブロック含む。10YR4/1 褐色シルト (耕作土) 粒・ブロック含む。骨片含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 10YR6/6 明黄褐色 粘土 10YR2/1 黄黒色シルト含む。粘性あり、しまりやや強い。

図 12 25H 区 0142SK 遺構断面図 (1/50)

25H区 0144SK



- 10YR4/1 褐灰色 シルト 10YR8/6 黄褐色粘土粒・ブロック少量含む。炭化物・焼土粒含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 10YR7/4 にぶい黄褐色 粘土 10YR4/1 褐灰色シルト土粒・ブロック多量含む。炭化物・焼土粒含む。粘性あり、しまりやや強い。

図 13 25H 区 0144SK 遺構断面図 (1/50)

表2 推定土坑墓一覧表

遺構番号	遺物	遺構分類	土坑墓推定分類
24C区351SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区366SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1094SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1105SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1566SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1591SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1652SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1669SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1702SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1725SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1813SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1819SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1821SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1822SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1837SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1842SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1843SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24C区1871SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24F区2036SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24F区2040SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24F区2055SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24F区2056SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24F区2125SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24F区2160ST	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24F区2161SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24F区2194SK	無	C7	土葬・集団一土坑墓
24J区078SK	灰釉四耳壺	C2	火葬・集団一土坑墓
25O区0037SK	灰釉四耳壺・鉄釉瓶子	B2	火葬・集団一土坑墓
25H区0139SK	土師器・炭化物・骨	B1,4	火葬・集団一土坑墓
25H区0140SK	炭化物・骨	B4	火葬・集団一土坑墓
25H区0141SK	陶器・炭化物・骨	C1,4	火葬・集団一土坑墓
25H区0142SK	骨	B4	火葬・集団一土坑墓
25H区0144SK	土師器・炭化物・骨	B1,4	火葬・集団一土坑墓
25H区0198SK	須恵器・山茶碗・陶器・骨	B1,4	火葬・集団一土坑墓
25H区0199SK	山茶碗・骨	B1,4	火葬・集団一土坑墓

墓の推定を試みた。比較検討の結果としては、2類型・合計 37 基が土坑墓の可能性があることが明らかとなった。

24C 区や 25F 区で確認されている土坑では、先述したように赤塚氏の分類のように「土葬・集団一土坑墓」の可能性が非常に高いと考えられる。また、近隣調査区の 250 区では、土坑は削平されており浅くなっているものの、灰釉四耳壺が出土したり近接遺構では炭化物や骨片が出土しているのでこちらは火葬による土坑墓の可能性は高い。なお、蔵骨器が伴う土坑、骨片や炭化物が含まれている土坑は、本遺跡における密集状況を踏まえ今回は暫定的に集団墓の分類にした。これについては火葬・単独一その他の可能性があるため引き続き検討していく。

今回推定した土坑墓は遺跡の南東側（特に 25J 区から 24F 区にかけて）に集中していることが判明した。一方で 25I 区や 25H 区南端では

7. 考察・まとめ・今後の課題

本研究では土坑墓の型式に注目し、岡本氏 (2006) の分類指標を用いて青山神明遺跡の土坑

青山神明遺跡における土坑墓の変遷過程については、一部ではあるがその手がかりを得ることができた。集団墓は近隣から出土している遺物から山茶碗が出土しており少なくとも 12 世紀

また、本遺跡における推定土坑墓は他遺跡に比べて少数ではあるが、今回は平面形や墓地形態といった特定の指標に絞った検討であった。今後は遺構間の関係性や立地環境など、より多角的な視点から研究を継続していきたい。

本稿の執筆にあたり、愛知県埋蔵文化財センターの鈴木正貴氏には多大なるご教示を賜った。また現地調査においては、瀬戸市埋蔵文化財センターの岡本直久氏に専門的なご指導をいただいた。両氏に改めて深く感謝の意を表したい。

赤塚次郎 1987「方形土坑」「土田遺跡」「愛知県埋蔵文化財センター 調査報告書第2集」財団法人愛知県埋蔵文化財センター
岡本直久他 1994『東海の中世墓』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター企画展図録 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
岡本直久 1997「第5章考察・まとめ 第1節」『品野西遺跡』(財)団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告書第13集 瀬戸市埋蔵文化財センター
岡本直久 2001「中世後期の火葬墓～品野西中世墓の位置付け～」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第9輯』瀬戸市埋蔵文化財センター
岡本直久 2006「愛知県における中世墓の分類」『墓場の考古学』第13回東海考古学フォーラム

